

【1 分解説】つなぎ国債とは？

総合調査部 マクロ環境調査グループ 研究理事 谷口 智明

つなぎ国債とは、償還財源を予め法律で担保して発行する国債のことで、安定財源を確保するまでの資金繰りを「つなぐ」ことから、便宜的に呼ばれています。正式には普通国債の一種です。

2023年6月に閣議決定された「こども未来戦略方針」では、少子化対策の「加速化プラン」実施が完了する2028年度までに安定財源を確保するとして、その間の「つなぎ」として「こども特例公債」の発行が示されました。償還に必要な財源は、社会保障制度改革に加え、社会保険料の賦課・徴収の仕組みを活用した「支援金制度」（仮称）から労使を含めた各層で賄うことを想定しています。

つなぎ国債は過去にも発行事例があります。例えば、年金特例国債は基礎年金の国庫負担割合を引き上げる際に不足する財源を補うため、2012年度から13年度に発行されました。消費税増税による収入を償還財源としており、現在も償還が続いています（資料）。

つなぎ国債は償還財源を特定しており、財政赤字を拡大させにくい利点がある一方、今後、償還財源とこども・子育て予算に必要な財源の両建てで確保する必要があります。社会保障制度改革や新たな「支援金制度」の行方次第では、将来世代に負担を先送りする懸念もあり、十分な財源の確保と効果的な財政運営が求められます。

資料 普通国債残高の種類別内訳

区分	(単位:億円) 2023年度末(見込み)
建設国債	2,941,411
特例国債	7,445,140
減税特例国債	1,786
復興債	49,315
年金特例国債	25,503
脱炭素成長型経済構造移行債(仮称)	16,096
借換国債	200,962
普通国債合計	10,680,213

(注)2023年度当初予算ベース。借換国債は、日本国有鉄道清算事業団承継債務借換国債、国有林野事業承継債務借換国債、交付税及び譲与税配付金承継債務借換国債の合計。

(出所)財務省「最近10カ年間の年度末の国債・借入金残高の種類別内訳の推移」より、第一生命経済研究所作成

関連レポート

・「【1 分解説】異次元の少子化対策とは？」(2023年6月)

<https://www.dlri.co.jp/report/ld/253624.html>